

<b>Künstler</b>	Tim & Puma Mimi	<b>Album</b>	More or Less Tim & Puma Mimi	<b>Veröffentlichungsdatum</b>	18.04.2025
-----------------	-----------------	--------------	------------------------------	-------------------------------	------------

<b>Label</b>	A Tree in a Field Records	<b>Genre</b>	Indie, Electronic Pop, Glitch Pop	<b>Format</b>	LP Vinyl, Digital
--------------	---------------------------	--------------	-----------------------------------	---------------	-------------------



「コンニチハ。ワタシタチハタイムトプーマミミデス。カノジョハカオデオドル」。Siriが日本語で挨拶する。これだけで、Tim & Puma Mimi (ティム・アンド・プーマミミ) が戻ってきた! と実感する。テクノキュウリ、歯磨粉フルート、スカイブコンサートなどで知られるスイスと日本のエレクトロデュオは、最近ではハリウッド映画『Ghost in the Shell』に楽曲が登用されている。7年間の子育て休業、本人たちによると「インターン研修期間」を経て、二人は新たなベイビーを生み出した。耳寄りな12曲入りニューアルバム『More or Less Tim & Puma Mimi』である。

「『Less』はここ10年、僕らの音楽のテーマだった。ある程度のスタンダードをキープしつつ、必要のないものを削ぎ落としていくにはどうしたらいいのか。ミミは『More』も僕らの要素だといった。もっと爆音で、もっとワイルドに、もっとライブの量を増やすにはどうしたらいいのか。じゃあ僕らは『More or Less Tim & Puma Mimi』だね、って。」

Tim & Puma Mimi

足し算と引き算で遊ぶこと。これがニューアルバムの一貫した特徴だ。まず、楽器が増えている。8ビットの懐かしいゲームサウンドを奏でる電卓型ポケットオペレーター。プーマミミのユニークなヴォーカルに新たな可能性をひらいたポコーダー。琴、タンブラ、モノコードをミックスした楽器コタモは、3つの文化、3つの音を融合させた1つの楽器である。サウンドで印象的なのは、ビートが少なめな(と感じる)ことと、笛や虫の声、童謡など、日本の要素がこれまで以上に目立っていること(『Aka Tombo』『Ryushi』)。

「リック・ルービンの本を読んだあと、裸足で髭を生やした音楽プロデューサーが、作業している僕らの後ろのソファに座っているところを想像した。想像のリックは『ミュートは少なすぎるより、多すぎるくらいがいい』とアドバイスをくれたよ。」

Tim & Puma Mimi

#### Tracklist

01	イントロ	00:38
02	ブランケット(ススキノバージョン)	03:20
03	リトルビックシティー	03:42
04	日曜日	02:40
05	雑音	03:20
06	赤とんぼ	02:53
07	パールブルー	02:52
08	絆創膏	03:07
09	ブランケット(小樽バージョン)	03:34
10	粒子	03:06
11	浮遊火山	04:23
12	ゲストブックNo. 2	08:25

Cat. TREE092  
EAN 3617667671787

Website:  
<https://timpuma.ch/>

Instagram:  
<https://www.instagram.com/timandpumamimi/>

EPK:  
<https://s.disco.ac/kppclgfmkklb>

#### Kontakt

Marlon McNeill  
+41 78 741 89 88  
marlon@atiafmusicpromotion.com

後半はダークで実験的なトリップホップのムードが強い(『Bansökō』『Floating Volcano』)。同時にTim & Puma Mimiならではの奇抜なアイデアが随所にうかがえる。例えば、インターンの子供たちの声(『Pale Blue』)。家族ぐるみで付き合いのあるギタリストToshi TKNGのスタイリッシュなソロは「デュラン・デュランにインスパイア(『Blanket Otaru Version』)されたホテル・カリフォルニア(『Nichiyoubi』)」のイメージ。他にもこのアルバムには多くのゲストが参加している。ハンブルグのDJ Benni Bolは、ティムが朝食を終えてスイスへ帰ろうかという時に、テーブルにパラフォンをどんと置いて曲のアイデアを練りはじめた(『Pale Blue』)。10人のミュージシャン仲間の短い演奏をつなげて一曲に仕上げたコラージュアートのような作品もある(『Guest Book No.2』)。ミキシングは、Irrwitzを手掛けたBálint Dobozi(Kalabreses Rumpelorchester)。Knarf Rellöm & DJ Patteのカバーソング(『Little Big City』)はチューリッヒで姿を消しつつあるスクワットハウス\*へのオマージュだ。

こうした影響を受けつつ『More or Less Tim & Puma Mimi』は主に旅先でひっそりと創作された。スペインのメノルカ島、札幌でのアーティスト・イン・レジデンス、スイスのオンセルノーネ渓谷。洞窟や人気のない山荘で音楽だけに集中する時間を確保した。こうして、あらゆる境界線を打ち破って魅力的な12曲が誕生した。同時にコミックブックもリリリースされる。「ルールなんか気にするな」。これがTim & Puma Mimi世界の唯一のルールである。

ティム&ピューマ・ミミ  
Michiko Hanawa Fischer  
Christian Fischer

\*スクワットハウス(Squat House)とは、スクワッター(Squatter)と呼ばれる人たちが、政治的、文化的、経済的な目的で不法に占拠する空家の建物のこと。法的な正当性はないが、スイスでは建物の取壊しおよび売却が決まるまでの期間という条件で、オーナーや警察と合意の上で占拠をすることが多い。長らく使用されていない建物を再利用し、独自のバー、コンサート、イベントなどを企画することでサブカルチャーにおける「社会文化センター」の役割を担う。メインストリームに収まりきれない刺激的なアーティスト達が集まり、パンクロックなどミュージックシーンに与えてきた影響も少なくない。今日のチューリッヒでは、こういったスクワットハウスが都市再開発により大型商業施設や高級アパートに姿を変えており、商業利益の少ないインディーアーティストの活動の場が少なくなってきた。

**AtiafMusicpromotion**